

2008/01/17

ネットワークフォーラム in 霞が関

記念講演

知の地域づくりと市民の自立

慶應義塾大学大学院 片山善博

知的立国と知の地域づくり

— 知的立国を地域で支え、実現するのが知の地域づくり —

- **科学技術立国**
科学技術の力で国民を豊かにし、世界に貢献する
- **文化芸術大国**
質の高い文化芸術が国民を心豊かにし、世界の人々を魅了する
- **清潔で透明性の高い政府**
土建国家や軍事大国、金満国家でなく、教育を重視するはず
- **自立した市民**
良質の政府を形成するのは賢明な市民

市民の自立とは

- 自ら考え、自ら判断・決定し、自ら行動する
- 自己の潜在能力を十分生かして自己実現を図り、社会に貢献する
- 自立するには、それを支える公正で中立な知的拠点の存在が必要

自立する市民・地域にとって必要な 情報や資料(1)

地域と文化芸術

- ・ 日常的に文化芸術に親しめる地域づくりに関する情報が、市民の活動や運動につながる

地球環境問題と地域の取組み

- ・ 「地球規模で考え、地域で行動する」内外の実践を知ることが、効果的な活動に結びつく

地域の国際交流と国際貢献

- ・ 海外の事情紹介が、市民による国際交流に発展する
- ・ 例えば青年海外協力隊の活動の紹介が、後進の参加に結びつく

自立する市民・地域にとって必要な 情報や資料(2)

基礎的自治体のあり方と市町村合併

- 質の高い行政を行う小規模自治体の実例が、政府の恣意的情報の対抗軸になる草の根自治を知る
- 欧米の地方議会に関する情報が日本の議会の歪さを浮き彫りにし、機能回復の契機にも教育と地方分権
- 北欧の教育事情に関する情報が、教育現場における多様な取り組みにつながる

自立する市民・地域にとって必要な 情報や資料(3)

子どもたちと就業・就職イメージ

- ・ 社会人として自立し、職に就くことのイメージを掴み、進路選択の不安を軽減する

健康と病気

- ・ 病気や健康に関する情報提供が個人の健康回復や心の平安をもたらす

知の地域づくりと情報提供機関のミッション

－「誰のために」「何の目的で」－

情報提供機関のミッションは、市民(住民)の自立を知的に支援すること

- ・ 所蔵資料の選定について、これまでとは違った視点と関心を持つことが必要
- ・ 単なる資料の貸出にとどまらず、質の高いレファレンス機能による支援が求められる
- ・ 映像情報などの利活用ネットワークが必要－良質のコンテンツが数多く退蔵されている

趣味・教養中心の機関では、市場主義的考え方や財政難から、予算・組織の縮小は免れない

知の地域づくりを進めるための 自治体改革を(1)

- 多くの自治体は財政難に陥っている
－その原因と背景－
- 政府の無責任
－公共事業などのハード事業と地方債による資金調達を懲瀆－
- 考える力が不足した自治体
－政府のその場しのぎの政策の危うさを見抜く力がない－
- 市民の無関心と放任(お任せ民主主義)
- 結果的に市民にとって必要性の薄い事業に大金を投じ、借金の山を拵えた

知の地域づくりを進めるための 自治体改革を(2)

知に対する多くの自治体の首長、議員、幹部職員のリテラシーは決して高くない

- ・一般に政策選択がハード事業などに偏る一方で、文化や芸術、教育への関心は高くない

自治体を「知的」に変えるには、自立した市民の力が不可欠

選挙や日常的参画による力

- ・そのためにも、質の高い情報提供機関による市民の自立支援機能が重要